

環境福祉経済委員会行政視察報告書

先進地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

平成 28 年 6 月 13 日

光市議会議長 中村 賢道 様

環境福祉経済委員会

委員長	大樂 俊明
副委員長	萬谷 竹彦
委員	磯部登志恵
委員	加賀美允彦
委員	木村 則夫
委員	土橋 啓義
委員	中村 賢道 (議長)
委員	畠堀 計之
委員	森戸 芳史
随 行	守田 正剛 (事務局)

記

- 1 研修年月日 平成 28 年 5 月 10 日 (火) ～ 5 月 12 日 (木)
- 2 視察場所 福井県高浜町
石川県かほく市
石川県金沢市
- 3 研修計画 別紙のとおり

環境福祉経済委員会行政視察調査結果

●福井県高浜町（人口 1.1 万人、面積 72.20k m²）

- 1 日時 平成 28 年 5 月 10 日（火）14:00～16:00
- 2 調査概要 高浜町の医療再生への取り組みについて
- 3 内容

地方の医師不足の大きな要因として、医師、研修医の都市部大病院志向、及び研修医制度の変革が挙げられ、地方の常勤医師数の減少を招く結果となっている。

これを踏まえた高浜町の取り組みとして、町が大学医学部に投資し、地元で医学生や研修医が勉強できる寄附講座を全国で初めて開設、医学教育に特化した研究拠点を設置し、地域医療の現場において医学生や研修医を育成するシステムを構築し、深刻な医師不足の解消にも効果的な好循環を形成した。

また、地域医療の主役は医師でなく住民との考え方から「たかはま地域医療サポーターの会」を立ち上げ、「関心を持とう」「かかりつけを持とう」「からだづくりに取り組もう」など「か」で始まる「地域医療を守り育てる五か条」を住民に浸透させる活動を展開し効果をあげているという。本市で通用する普遍性があるか、今後も高浜町との情報連携をとりながら、本市の地域医療に活かしていく。

4 主な質疑

問：寄附講座とは何か。

答：経緯としては、医師数の減少対策として、高浜町国民健康保険和田診療所において医学教育を主力においたところ、若い医師が集い始め、町としてはそこに着目し、平成 19 年に高浜町地域医療基本構想を発表した。翌年には町の医療システムの再構築を目指して、地域医療ワーキンググループを設置し、この基本構想のもと、医師を育てるための仕組みづくり、病院の安定的な経営のための仕組みづくり、診療所の支援強化、保健・福祉分野の強化や連携、町民への地域医療に対する理解の浸透といった町の現状に即した地域医療再生に向けたアクション・プランを提言した。また、ワーキンググループの中で、プランの実現を支援するため、町長をはじめ行政、議会の決断により、平成 21 年 3 月に全国初となる町による医学部寄附講座「地域プライマリケア講座」を誕生させた。

問：講座の内容とは。

答：地域医療がどのように行われているか、また、どのようなシステムで関係機関や医師とコーディネートが連携して動いているか実感できると思う。さらに学生には、実際に診療の補助や、町民との触れ合い、研修内容を発表することで、システム全体の統合的な理解とモチベーションの向上を図ることとしている。研修医は、地域に根ざした病院・診療所の入院診療、外来診療、在宅診療、救急外来の役割や、在宅、外来、入院を継続して診ることの重要性、医療面接コミュニケーション術の威力、保健・医療・福祉の連携のかけがえのなさを目標に応じて研修し、現在、大学医学部附属病院以外にも、福井県立病院などから研修を受け入れている。また、実際に病院・診療所スタッフとして、診療・検査・医療システム連携を実践・開発し、地域の中での医師の働き、あるいは医学教育について、深く掘り下げることにより学会資格も取得可能であり、大学との連携もある。



●石川県かほく市（人口 3.4 万人、面積 64.44k m²）

- 1 日時 平成28年5月11日（水）13：00～15：00
- 2 調査概要 上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について
- 3 内容

包括的民間委託を採用した背景については、市財政も厳しい中、一般会計から下水道への繰入金が大きく、維持管理予算が削減される傾向にあり、「管理レベルの低下」への懸念が大きな理由としてある。また、市町村合併等による職員数の削減も重なり、行政だけでは事業の継続が不安視されたことから、上水道・下水道事業における管理業務の委託についての検討を行い、まずは下水道事業について包括的民間委託を実施。また、さらなる業務効率化が必要であったことから、所管において事業の現状分析・手法検討を行った上で、人材・技術が類似する水道事業の管理についても一体的に管理することにより、維持管理効率化に向けたインセンティブが働きやすい等のメリットを鑑み、包括的民間委託を行った。運営面やコスト縮減にも極的に取り組み、複数年契約で民間業のノウハウを活かし、人件費削減（19人から11人）を達成し、5年間で74,850千円の削減効果を生んだ。様々な一元化による取り組みは特質すべき内容であった。

ただし、民間委託による市職員の技術継承の問題や、民間事業者からの提案に対する評価能力について課題も数多くあることがわかった。

4、主な質疑

問：上下水道の一体管理を実施したことによる効果、コスト縮減を含めた成果について。

答：民間のノウハウにより、上下水ともに水質の向上が見られた。また、浄化センターでの監視装置による自主管理機能の強化、あるいは市職員と協働で特別教育を実施、技術の伝承に努めている。

コストの縮減については、委託費の設計額算出にあたって、業務単価が大きくなれば諸経費率が小さくなるので、単年度契約に比べ5年間で45,450千円の削減、また、受託者からの請負提示額が設計費に比し5年間で29,400千円の削減効果が見られた。これらは、複数年契約により、薬品等の大量購入、安定した雇用の確保、民間ノウハウによる点検管理の効率化によるものとする。

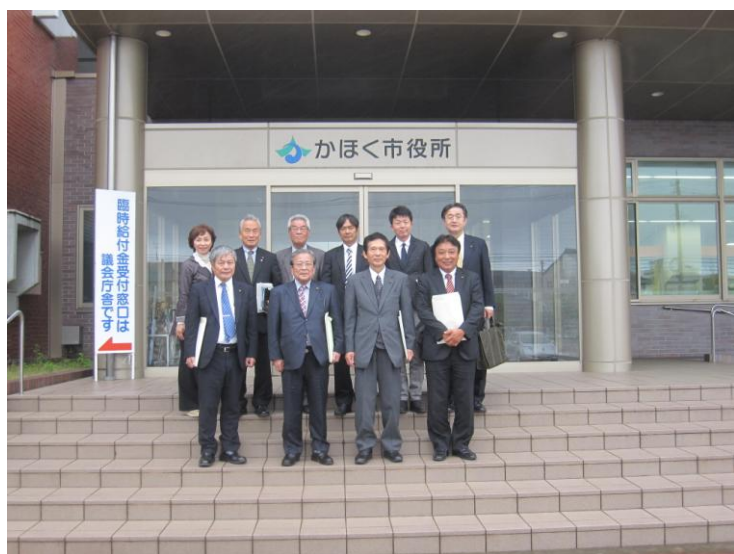
問：将来の人口減少、職員の技術継承を考慮すると、包括的民間委託は経営手法の一つと考えるが、これらを解決する他の手法として、近隣自治体との広域運営等の検討はされなかったのか。

答：隣接自治体との広域化については、接続するための新規管路整備に膨大な費用がかかること及び要求水準の設定・使用料金の統一化等懸案事項が多く、協議の段階に至らなかった。

問：本事業は、効果的な日常の維持管理の充実化により、施設の破損リスクの軽減化、施設寿命の延命化といった予防保全を行っていると考えますが、かほく市が有する上下水道資産の更新計画との関連性について聞きたい。

答：委託料の中に、2,500千円/年の修繕費を計上しており、簡易な修繕に使用している。

市の更新計画と直接関連性はないが、設備更新の際は単純更新ではなく、維持管理業者に意見聴取し最適な更新を行う。





<委員所感>

所 感 (大樂 俊明)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

高浜町も医師不足の課題は大きく、各種の解消策の中でホームステイ型地域医療実習と題し、医学生等への希望者を募集し、高浜の町中で地域のお宅にホームステイして地域を丸ごと感じ取って貰う。地域の医療現場で直接患者さんと触れ更にはイベント参加で繋がりを深めて将来町の医療機関への就業に繋げるもので約10%の希望があり効率の良い方法と思った。見習いたい処だ。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

かほく市上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託については、民間のノウハウ、技術力活用をコストダウン迄拡大を図る事は大変関心をそそるが、問題点も多々見られ、今後の課題として更なる検討を感じた。

所 感 (萬谷 竹彦)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

高浜町では医師の勤務する地域づくり～住民・行政・医療介護の協働による高浜町の医療再生と、新しい地域包括ケアシステム構築への取り組み～について、説明を受けました。高浜町も医師不足（特に総合医）に悩み、近隣市町に大きな総合病院がある為に住民の無関心が問題点とされていました。対策として、医学教育・住民啓発に力を入れ、研究・評価をしてきました。そして、日本プライマリケア連合学会認定後期研修プログラムとして、「救急に強い総合医養成コース」は福井大学を中心に展開されていました。

また、住民啓発の一環として「たかはま地域医療サポーターの会」が立ちあがり、地域医療のために住民としてできることを探して実行していく住民有志団体として活動しています。その結果、27年度の受け入れは、学生等が78名、初期研修医が42名、後期研修性3名となり、効果が出てきています。我々のこれからの取り組みとして、様々な地域医療モデル、そして地域での協働の発展モデルを想定しながら、医学教育・住民啓発を行っていく

必要があると思いました。議員としては、多分野多部署の横断的な議論・活動のコーディネーターとして、施策・政策への効率的な反映ができるよう、努めていく役割が必要だと感じました。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

かほく市の上下水道一体での管理手法導入の背景として、一般部局の財政悪化、合併による人員削減などがあげられます。民間委託により、コスト縮減が見込まれ、約8%の削減効果が出ています。また、マンホール蓋に企業広告を募集し、11社15枚のスポンサーを獲得するなど官民協働で地域活性化プロジェクトも展開しています。しかしながら、一体管理の背景として、上下水道施設の位置などがあり、単純に光市と比較できない部分もあり、光市で行った場合の一体管理、民間委託それぞれの効果を精査しなければならないと感じました。これからも、かほく市の動向を注目していきたいと思えます。

所 感 (磯部 登志恵)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

二つの公立病院の医師確保については、所管委員会として喫緊の課題である。環境の違いはあるが、積極的な取り組みから医師の増員が進んだ高浜町の手法は、非常に興味がある。特に医療行政の窓口が、まちづくりの視点から進められている点だ。夏に開催される医学生・研修医・看護学生を対象とした体験ツアー等は、海と地域医療を繋ぐきっかけになっている。体験ツアーには、市民を巻き込んだ里親制度なども取り入れられており、全国から集まるという。光市も魅力ある白砂青松の海を活用した取り組みは、参考にすべきと感じた。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

全国で進められている上下水道の一体管理について、先進地であるかほく市で包括的な民間委託の可能性を伺った。民間活力を活かした効果は大きいですが、職員削減ありきではなく、安全安心の視点はどうあるべきかを協議する必要性を痛感した。光市では、上下水道の同時徴収はすでに進められているので、さらなる議論を深めていきたい。

所 感 (加賀美 允彦)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

福井県高浜町国民健康保険和田診療所において視察を行った。

町内常勤医師不足に悩む高浜町は、独自の活動を展開して成果をあげている。住民としてできることを探し実行していく「たかはま地域医療サポーターの会」を設置し、地域医療を守り育てる5か条をもとに意見交換会、学生・研修医教育の協力などをして、住民みんなで考え行動する体制が大きな成果をあげていることを考えると光市もこうした試みをしていくことも必要だと思った。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

かほく市では、上下水道を一体管理した包括的民間委託を実施して効果をあげている。民間活力を活用することはこれからの大きな課題の一つであるが、ここまで取り組むには強い決断と確かなノウハウをもつ業者の選定が必要であるがやれないことはないと思った。

これら2つの事例は、これからの光市にとって挑戦すべき意味合いをもっており、方法はいろいろ考えられるがこのような思い切った発想の転換をはかることの必要性を痛感した。

所 感 (木村 則夫)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

福井県高浜町へは、医師不足による地域医療の確保に向けた、その取り組みを視察。人口 1 万人、高齢化率 30%の小さな町は、平成 13 年に 13 人いた医師が、平成 20 年に 5 人にまで減った事で、医療再生に向けてワーキンググループを立ち上げ、5つのアクションプランを提言、福井大学との連携により現在では 12 人まで回復している。行政が 1 医師をプロデューサーとして委嘱、学生や研修医を紹介し、ホームステイやイベントを通じ、町の良さを伝える事で、将来高浜町を選択してもらおうとする取り組みで、本市に於いても参考になるものと考えました。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

かほく市では、上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について視察。民間事業者をノウハウや技術力を活用する事により、コストの縮減や維持管理を向上させようとするのが目的。業者選定はプロポーザル方式で、5年間を委託期間としている。特徴として、維持管理において事業者の裁量に任せる事。これまで第1期平成 16 年度からの取り組みで、年間約 4,000 万の削減効果をあげている。光市とは地形などの事情が大きく異なる事から、課題もあると思うが、官民連携の方向としては検討する価値はあると考える。

所 感 (土橋 啓義)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

高浜町と福井大学医学部において、主に「なぜ寄附講座を行うのか」、「講座開設による町側のメリット、あるいは大学側のメリット」について質疑を行った。町からの寄附により、大学医学部は高浜町内に研究拠点を置き、学生や研修医に医療の最前線で経験を積ませ、救急の場合の対応から健康診断の結果についての相談まで幅広く行う医療の確立、つまりは専門的なトレーニングを積み、患者の抱える様々な問題にいつでも対処できる能力を身に着けた何でも診る専門医の育成、定着を目指すとしている。結果、町の医師不足の解消を図るシステムの構築がカギとなるものと理解している。高浜の取り組みは、単に学生が単位取得ができる、研修医の待遇がいいということで人が集まるというのではなく、患者が求める崇高な理念と意思、技術を持った医師を何人教育できるか、または確保できるかという地域医療における永遠のテー

マに果敢に挑戦しているということである。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

近年全国的に上下水事業の一元化の動きが著しい。山口県内においても半数以上がそれを実現しており、今後光市も一体化の方向になっていくのであろうかとも思うが、政策上の問題も含め、一体化をするならするで、一番良い方法で行う必要がある。経済性を求められる水道事業に対し、下水道事業は公共性を求められている。また、両者の施設仕様、維持管理方法は大きく異なっており、事業運営面から課題や対応策に不安がある。現在の水道事業において、管路、施設等の耐震化、老朽管への更新といったものは、大半を水道料金収入の中で行っている。特に地震列島といわれる我が国の管路の耐震化は避けて通れない。そういった場合、自前の技術者を置いて設計施工した方が逆に安く上がるのではないかと考える。本質的に技術者の育成は簡単なことではない。下水道は行政色が強く、職員の異動サイクルも短い中で、「上下水道事業への愛着や帰属意識は醸成されにくいのではないか」、「労働組合との協議で理解を得られるのか」という懸念も残る。かほく市の包括的民間委託という方法で、業者の企業努力だけでは見えないリスクが潜んでいると思えてならない。

所 感 (中村 賢道)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

高浜町の医療崩壊は、医師不足、社会保険病院の存続、そして住民の無関心等であるとの説明を受けました。

全国的に深刻化している医師不足は、当光市でも大きな課題であると思います。

何が問題なのか？

①地域医療確保奨学金制度

②勤務環境の整備のための支援等の取り組みも大事なのかと思いました。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

民間委託で大幅な料金値下げといった可能性もある。

住民にとってはサービスの向上になるが、本市の上下水道一体管理はメリット、デメリットの課題をしっかりと精査、検討が必要であると思いました。

所 感 (畠堀 計之)

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

高浜町国民健康保険和田診療所視察（福井県）—高浜町の医療再生への取り組み—については、地域医療における医師確保に向け、まず当該地域（医療）を体感いただくことを目的に福井大学への寄附講座や地域特性を活かした各種研修会が実施されています。対象となる学生や研修医への積極的な PR なども行われており、町内医師数の増加につながっているようでした（平成 21 年 5 名から平成 27 年 12 名）。地域医療における医師確保は難しい課題で

あるだけに、幅広い観点からの取り組みの検討実施が重要であることを再認識しました。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

かほく市視察（石川県）—上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託—については、上下水道事業の在り方の一つとして、大いに参考となりました。かほく市では、市職員の適正人員化計画が進む中、関係部署の職員数が減少された後に包括的民間化が行われていましたが、人員等にも余裕のある早期の段階で、計画的に取り組むことが重要ではないかと思いました。

所 感（森戸 芳史）

<高浜町の医療再生の取り組みについて>

深刻な医師不足解消のため福井大学の寄附講座を開設し地域医療に意欲のある研修医や看護学生を地域で受け入れる仕組みが参考になった。ターゲットが明確だからこそ税金が原資の寄付と研修者への宿泊サポートもうなずける。また素晴らしい自然環境も研修生を惹きつける要因となっている。光市でも参考にできる取り組みだ。

<上下水道施設を一体管理とした包括的民間委託について>

かほく市は終末処理場を所有しているが光市は山口県管理であるので上下水道を一体化し民間委託してもコストダウンの幅が小さい。普及率も99%のかほく市に対し光市79%なので管路の延長に予算が必要で民間委託を行う財政的余裕が無い状況である。